

またあう日まで

南山大学経営学部経営学科 中 尾 陽 子

私がつんつんと初めてあったのは、南山短期大学人間関係科に入学した1987年。つんつんは何歳だったのかな？と思い数えてみると、なんと30代半ばだったご様子。あの頃のイメージは、『パワフル』で、『思いついたら即行動する』『やたら熱い人！』でした。

一年生の頃から何かとご縁があり、今でも当時の記憶が強く残るスタッフの一人です。入学してすぐの生活づくり合宿では、一緒のお家に配属され、5泊6日も一つ屋根の下で暮らしたし、基礎論ⅡBでは、一緒に稽古して『ブンナよ木から降りてこい』を上演しましたよね。発表の当日、和尚さん役のつんつんが、カエルたちのエサ用（小道具）に奥様お手製の巨大なパンを抱えてきたのにはものすごくびっくりしたな～。こんな風に、何かを一緒にやったことばかり浮かんでくるのは、きっといつも私たち学生のそばにいてくれたから。「自分もこんな風に、学生さんと共にいたい。」と思い、今の仕事を志したことには、間違いなくつんつんの影響があったと感じています。

今の仕事の世界にはいつからでも、つんつんからは本当に多様な影響を受け、沢山の学びをいただきました。講座や授業をご一緒したときは、「中尾さん、今、こんな風に言ってたけど、あれはちょっと不明確だったし、厳しい感じがしたなあ。どんな思いを伝えたかったのかな？それやったら、これこれの方が相手も受け止めやすいんじゃないかなあ？」などと、気づいたことをすぐFBしてくださったり、問いかけてくださったり。こういう時のつんつんは、笑顔なんだけどその目は笑ってないことも多くて、ちょっと怖かったな。けれど、間違いなく愛あるFBばかりで、背筋がのびる思いの中、自分を広げる体験につながっていました。

さまざまな場面（特にTグループ）でのつんつんの関わりや働きかけから、また小講義などのレクチャーからも、たくさんの気づきと学びをいただきました。あと、呑み会での本音トークの数々ともとても貴重でした。これら一つひとつが私の血となり肉となり、「一人でも多くの方の、豊かで幸せな人間関係づくりをお手伝いしたい」という思いに繋がっています。

つんつん、本当にこれまでありがとうございます。つんつんと同じようには絶対にできないけれど、つんつんがここまで切り拓いてくれたラボラトリー方式の体験学習の道や世界を、これからも私なりに探究していきますね。18の春に南短・ニンカンに入ることができ、体験学習とつんつんに出会えたおかげで、私はここまで、とても幸せな人生を送ることができています。心からの感謝を捧げると共に、お空の上でまたお会いする日まで、プロセスから学び、今ここを一生懸命に生きていくこと、お約束します！

(文章を書き始めてみて、『津村先生』よりは『つんつん』の方がしっくりくと改めて感じましたので、いつも呼んでいたつんつんのまま綴らせていただきました。)